



石原橋下の釣人 Fishing under the Ishihara bridge ...

© photo by Isao Yoshida

## 本年度の方針

第五十三代会長 小川 晃 男



長い歴史と伝統を誇る飯能ロータリークラブの2016-2017年度会長を拝命いたしました。その重さを受けとめることを考えますと身の縮む思いですが、会員の皆様のご指導とご協力をいただき、一年間の職務を全うするべく最善の努力をする覚悟でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本年度のRI会長、John Germ (ジョン ジャーム) 氏はロータリアンが集う一番の理由は奉仕のためだとして、Rotary Serving Humanity (人類に奉仕するロータリー) をテーマに掲げられました。特にポリオの撲滅と、撲滅した後のロータリーのさらなる発展に言及されています。また、2570地区ガバナー、前嶋修身氏は「知恵と元気を」をテーマに掲げられ、会員数の減少に対しての危機感を訴えられました。例会の充実、公共イメージの向上、地域社会への貢献等を通じての会員増強を強調されました。また、財団100周年を含め、国際奉仕、青少年奉仕、職業奉仕、あらゆる奉仕を活性化して、元気なロータリーを目指す意気込みを示されました。

さて、当クラブにおきましても、会員増強は喫緊の課題であります。短期的には会員増強委員会の皆様を中心に全会員に新会員獲得と共に退会防止のために最善の努力をお願い致したいと存じますが、中、長期的な視点から申し上げますとクラブ自体が活気にあふれ、地域への認知度がさらに向上すること、地域での存在感が増すことが重要と考えます。

活気あるクラブであるために、クラブ奉仕に積極的に取り組む必要があります。魅力ある卓話、魅力ある親睦のメニューについて担当委員会の皆様にはその能力をフルに発揮していただくよう期待しておりますが、それに加えて、すべての会員の皆様にもお知恵を出していただき、楽しくて活力を感じる例会をめざしたいと思います。

地域にロータリーをよりよく認知していただくために、社会奉仕、職業奉仕、青少年奉仕を通じて、また広報を充実させることで地域に密着した活動を行い、少しでもよい方向へ進めたらと願っております。国際奉仕については具体的な活動を成就させることで、クラブ全体の士気が上がりクラブの活性化に繋がりますので、これも重要課題です。

一番大事なことは会員の一人一人がロータリーの奉仕(service)の精神とは何かという、古くて新しい永遠の命題に真摯に向き合い、考え、感じるのだと思います。ポール・ハリス、アーサー・フレデリック・シェルドン、米山梅吉から連綿と続くロータリーの心の歴史を皆様の一人一人がより深く感じることが大切だと思います。ロータリーの“I serve”の精神は今も生きております。会員の皆様がそれぞれに奉仕の気持ちをより大きく育むことで、個々の力を結集することで、結果としてクラブのパワーが大きくなると私は信じております。最後になりますが **「ロータリーを心で感じよう」**

をキーワードとして提唱させていただき、皆様のご協力を心からお願い申し上げます、本年度の方針とさせていただきます。

# 任期を終了して

第五十三代会長 小川 晃 男



人類に奉仕するロータリー (Rotary Serving Humanity) という John Germ RI 会長の掲げたテーマのもと、2570 地区の前嶋修身ガバナーの仰る「知恵と元気を」出してこの一年を過ごしてまいりました。私自身は「ロータリーを心で感じよう」と申しあげました。

ポールハリスから続くロータリークラブは世界の歴史の流れの中でその時々、自らを修正しながら成長を続けてきました。奉仕 (service) の概念も変化を遂げながら今に至っております。しかし奉仕の概念や定義が変わっても、変わらないものが一つあります。それは奉仕しようとするロータリアンの姿勢あるいは心です。ロータリアンがその心を忘れない限りロータリーの未来は明るいものだろうと私は思っています。心で感じようと申しあげたのは、奉仕の意味をより深く理解しようという気持ちからでした。一人ひとりの会員がロータリーをより深く心で感じてくだされば、当クラブは必ず発展していくと信じて、この一年を過ごしてまいりました。

さて、いま任期を終えるにあたり、なんとか次年度の和泉会長に襷をわたすことができたことを心から嬉しく思っています。ただ、ガバナー補佐を輩出し、地区委員を3名送りだし、米山奨学生と共に青少年交換留学生のホストクラブを引き受けることになりました。名誉なことではありますが、多忙な一年が予想されます。しかしこれも奉仕の一環だと快くお引き受けくださった和泉会長に深甚の謝意を表したいと思いますと共にできる限りの協力をさせていただくことを申し添えたく存じます。

末筆で恐縮ですが、この一年の活動の成果はすべての会員の皆さまの奉仕の積み重ねの結晶であり、皆様のご協力がなければ何一つうまく行かなかったことを思いここに厚く御礼を申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。一年間誠にありがとうございました。